

7/26
五、残

コロナ影響 病院調査

NPOが実施

末期がんなどの患者が最期を過ごす緩和ケア病棟を抱える病院の7割超が、新型コロナウイルスの影響で患者や家族へのケアの質が低下したと考えていることが、NPO法人「日本ホスピス緩和ケア協会」（神奈川県中井町）の全国調査で判明しました。

協会に登録する276病院を対象に3月、昨年12月～今年2月末の対応などを調査。174病院から回答を得ました。

新型コロナによる緩和ケアの質への影響を

尋ねたところ、「33%が「大きく低下した」と回答。「少し低下」(39%)と合わせると7割を超ました。「低下していない」は25%でした。

低下の主な要因は面

会制限で、174病院中170病院(98%)が人數や時間、感染拡大地域からの面会を制限していました。家族を含むすべての面会を禁じた病院や、面会者がPCR検査をした病院もありました。

質低下の内容として

は、「患者が家族に会いたくても会えず、つらい思いをさせてい

る」「家族との対面で

の関わりが減り、情報共有が難しくなった」「みどりに間に合わない」などの声が寄せられました。面会制限についてでは、スマートフォンなどによる面会支援や家族への電話連絡を頻繁に行つたなどの回答がありました。

協会の安保博文副理事長は「感染対策や面会制限の在り方は、地域の感染状況や患者、家族の状況に応じて見直す必要があり、マニュアルで一律に決めるべきではない」と強調。「病院側は、一人

一人の患者や家族が置かれた環境を十分に把握し、柔軟に対応してほしい」と話しています。